

ロシアのエネルギー資源・経済・持続可能性*

—国内外の文脈における包括的分析—

山脇 大

(京都大学大学院経済学研究科/「京都大学大学院思修館」)

要 旨

ロシアは世界最大のエネルギー資源大国であり、国際エネルギー市場において重要なプレーヤーとして認識されている。加えて、国家と深い結びつきを有する国営企業による市場の席卷、旧共産主義圏の宗主国及び資源供給国としての役割、ヨーロッパとアジアに跨る広大な領土と網の目が如く敷設されたパイプライン等の地政学的要素もまた、ロシアにおけるエネルギー資源の特徴を際立たせているといえよう。一方で、ロシアにおけるエネルギー資源の開発は、経済成長のみならず、同国のイノベーションや産業構造にも影響を与えており、また同時に大気汚染の50%、表層水汚染の20%、二酸化炭素排出の70%を占める、主要な環境汚染源でもある。とりわけ、それは多くの石油・天然ガスを賦存する北極圏における開発動向と環境リスクの上昇にも顕著に表れている。加速するエネルギー資源開発と地球環境の危機を同時に迎える21世紀において、世界最大のエネルギー資源国ロシアの社会経済システムの持続可能性 (sustainability)、ひいては地球システム全体の持続可能性の行く末を左右するであろう、ロシアのエネルギー資源に関する包括的理解は非常に重要となっている。このような文脈において、本ワーキングペーパーはエネルギー資源国のマクロ経済的状况とそれに関わる議論を踏まえた上で、ロシアのエネルギー資源を内的文脈と外的文脈から捉えなおす。その双方向からの分析に基づき、ロシア経済及び地球システム全体の持続可能性に関して学際的に接近を試みることで、将来的な持続可能な発展に対して立ちはだかる課題を抽出する。

*本稿は、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「京都大学大学院思修館」における4年次海外武者修行及び5年次プロジェクトベースラーニング (PBL) の成果の一部である。同時に、本稿では北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 鈴川中村基金奨励研究員としての研究・調査活動の成果の一部も含んでいる。